

使徒の働き3章1-10節 「イエスの名による力」

1A 証しの祈り 1

1B 聖霊による証しの力

2B 主との近しさ

1C 主ご自身の祈り

2C 流れ出る力

2A 信仰から出る力 2-8

1B 普段の物乞い 2-3

2B イエスに倣ったペテロ 4-8

1C イエスのことばの力

2C 水の上での信仰

3C 願いをかなえられる方

4C 信仰の賜物

5C イエスを知る者

6C 自分ではないことを知る者

3A 神への賛美 9-10

本文

使徒の働き3章を開いてください。今晚は、1節から10節までを見ていきたいと思います。聖霊が弟子たちの降り、ペテロの福音説教によって、男三千人がバプテスマを受けました。そして、教会が生まれ、彼らは一つになって宮に集まり、また家々でパンを裂いています。そうした仲間に、民は好意を抱き、また主が救われる人々を加えてくださったとあります。そして次に、ペテロとヨハネが、聖霊の力によって人々に力ある働きをするところを見ます。

1A 証しの祈り 1

1B 聖霊による証しの力

¹ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

ペテロとヨハネは、使徒の働きの中で、二人で動いている時が多く見かけられます。例えば、サマリアでピリポを通して人々が信仰を持ったということで、エルサレムにある教会は二人を遣わします。ヨハネの福音書を見ても、既にイエス様の墓を見に行った時、二人で走っていきました。

そして、二人ずつというのは、イエスの時から行われていたことでした。ガリラヤにおられた時に、十二人を遣わされた時、「二人ずつ遣わし始めて(マルコ 6:7)」とあります。パウロも、バルナバと共にアンティオキアから遣わされましたし、後にはシラスと共に宣教旅行に行きました。それは、神の働きを証言するため、一人だけでなく、二人以上が必要だということなのでしょう。そして、主のみわざを証しする時に、二人、三人の証人が必要だとあるように、二人以上で働くことが望ましいとされていたに違いありません。使徒の働きでは、独りだけで動いていることは例外的です。チームで動くことが、神のモデルです。

2B 主との近しさ

そして、「午後三時の祈りの時間に宮に上って行った」とあります。ユダヤ人は、朝のいけにえ、夕のいけにえに合わせて、祈りを献げる習慣がありました。そして後で、正午にも祈りを献げる習慣を付け加え、日に三度祈ります。ペテロが、ヤツファの皮なめし職人シモンの家に行った時、正午に屋上に上って祈った話が書かれています(使徒 10:9)。ユダヤ人のイエスを信じる者たちは、その習慣を止めませんでした。

そして、彼らが聖霊の力を初めて受けた時、彼らは一つになって集まって、祈っていたことがうかがわれます(1:14)。これから私たちは、主イエスの御名の力を見ますが、それは、彼ら自身が祈りによって、主ご自身と近しかったということが分かります。

1C 主ご自身の祈り

思えば、主ご自身が、父なる神に祈りによって、近しく歩んでいました。「ルカ 5:15-16 しかし、イエスのうわさはますます広まり、大勢の群衆が話を聞くために、また病気を癒やしてもらうために集まって来た。だが、イエスご自身は寂しいところに退いて祈っておられた。」多くの働きをしておられる中でも、主は退いて、祈っておられたことが多くあります。

2C 流れ出る力

このようにして、主イエスご自身が祈りによって、父なる神に近しくあられ、そこから力が流れていたと思います。もちろん、主は神の御子であり、神ご自身ですが、しかし人としてのイエスは、父なる神との祈りにあって、その力が流れていました。イエスに、長血を患う女が触った後のことを思い出してください。主がこう言われました。「ルカ 8:46 だれかがわたしにさわりました。わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。」

主にある力は、このようにして祈りによってこの方と近づいて、その近しさの中から、周りの人々に力を示すことができます。主に用いられる人は、祈る人です。祈りによって主に近づき、そして、主の名によって行うことに、周りの人々が、その証しを見て、影響を受けていくのです。

2A 信仰から出る力 2-8

1B 普通の物乞い 2-3

²すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求め
るために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。³彼は、ペテロとヨハネが宮
に入ろうとするのを見て、施しを求めた。⁴ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを
見なさい」と言った。⁵彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。

神殿に、「生まれつき足の不自由な人」が運ばれてきています。宮に出入りしている人たちにとっ
ては、彼の存在はいつもの光景になっていたことでしょう。しかし、霊的には、うめくような状況です。
イザヤ書にて、神の救いが来る時に、「足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね」とあります(35:6)。
ですから、生まれつきの足の不自由な人が、いつもの場所に連れて来られるということ自体が、ま
だ神の救いが訪れていないということを象徴しているかのようです。しかも、その門の名前が「美
しの門」です。おそらくこれは、オリーブ山のほうから、ケデロン谷を経て入ってくる「東の門」の
ことでしょうが、足のきかない人がいるということは、まだ贖いが来ていない、その美しさが来てい
ないということです。

そして、今でもそうですが、世界各地の宗教施設の前には施しを求める人がいますね。聖書の
民イスラエルも同じで、貧しい者を施すことは律法に定められていることで、ユダヤ人にとっての
義務でした。そして、貧しい人たちにも事情があります。今のような社会保障制度はありません、
身障者の人の働き口はありません。施しによって生きていたのです。

⁴ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。⁵彼は何かもらえると
期待して、二人に目を注いだ。

ペテロとヨハネが、「私たちを見なさい」と言った時、この人は、何か施してもらえと思いました。
それで、二人に目を注ぎました。けれども、彼らはそういった意味で言っていません。彼に信仰を
見たのです。16節を見てください、「このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたが
たが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの
前で、このとおり完全なからだにしたのです。」この奇跡に展開されているのは、信仰の現れです。

2B イエスに倣ったペテロ 4-8

そして、ペテロのほうにも、信仰が与えられていました。彼が、思い出していたのは、ベテスダの
池でのことでしょう。イエスが、38年間、足なえの男を立てました。それから、ユダヤ人たちによ
る迫害が始まりました。ヨハネ5章1-9節を読んでみましょう。

¹その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。²エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があり、五つの回廊がついていた。³その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。⁴そこに、三十八年も病気にかかっている人がいた。⁵イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」⁶病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」⁷イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」^{8a}すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。

今、ペテロとヨハネがいるところは、神殿の敷地ですが、ベテスダの池も神殿のすぐそばにあります。そして、二人は美しの門から入りましたが、主は羊の門から入りました。神殿に足なえがいたのですが、ベテスダの池で足なえがいたのも、まだ主の憐れみが、ここでは示されていないという切実な思いがあったに違いありません。そして、美しの門で足がいやされた男は、40を過ぎた年齢ですが、ベテスダの池の男も、38年間、この状態ということで、似たような歳です。

1C イエスのことばの力

ペテロや弟子たちは、主ご自身が語られて、そのことばによって力を示されたのを、何度となく目撃しました。そして、今、ペテロや使徒たちは、イエスの名によって、同じようなことを行います。

2C 水の上での信仰

そこに必要なのは、信仰です。主が語られ、それで奇跡を行うための信仰です。イエスが、水の上を歩かれた時に、ペテロは、そのことばによって自分も水の上を歩くことができるという信仰が与えられました。「マタ 14:28-31 するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。29 イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。30 ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」沈みかけましたね。しかし主が助けました。そして、信仰が薄いと言われました。こうやって、ペテロは訓練を受けたのです。

今、イエスの名によって立ち上がり、歩きなさいと言いました。それから、7 節には「彼の右手を取って立たせた」とあります。ここではただ語るだけでなく、右手を取るという行動に出ました。行動にまで移るのには、信仰が必要です。しかし、彼は疑わないで信じたのです。

3C 願いをかなえられる方

この信仰のことばには、祈りや願いがありました。イエスが、ラザロをよみがえらせた時のことを思い出してください。「ラザロよ、出て来なさい」と、主は叫ばれましたが、その前に、父にこう祈ら

れていました。「ヨハ 11:41-42 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。42 あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」

このように、主に願って、そのことが聞かれているという確信をもって祈ることを、イエスは、他の命令と共に教えられました。「ヨハ 14:13-14 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」

4C 信仰の賜物

このようなかたちで、信仰の賜物が与えられています。主が、このことを行いなさいと命じられて、それを宣言し、行います。コリント人への第一の手紙 12 章で、列挙されている御霊の賜物の一つです。この賜物が満ちていることを、イエスは、地上で働きをしながら、どんなに願われたことでしょうか？主は、何度となくご自身に信頼を寄せた人々を励まされました。長血を患う女に対して、「ルカ 8:48 あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」と言われました。

けれども、このような信仰が果たしてあるのかどうか？と、主はご自身が戻ってこられる時のことを気にかけておられました。「18:8 あなたがたに言いますが、神は彼らのため、速やかにさばきを行ってくださいます。だが、人の子が来るとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」また、高い山から下りて来られたら、悪霊を弟子たちが追い出せなかったときに、「ルカ 9:41 ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子をここに連れて来なさい。」と言われました。信仰がないことを、曲がった時代と呼ばれているのです。信仰の賜物を用いることは、曲がった時代への挑戦です。

5C イエスを知る者

ただし、ここで注意しなければいけないのは、「イエスの名」というものを、単なる言葉だけで語っていることや、呪文のように唱えることは意味がないことです。これまで見てきたように、ペテロは、イエスという、人格のある方に信頼し、それでこの方を知っているので、その名によって宣言しました。そういったものがないのに、イエスの名によって、これこれのことを命じるといっても、意味がないのです。終わりの日の偽預言者らに、主はこう言われますね。「マタ 7:22-23 その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』」全然知らないと言われているのです。

そして、パウロがエペソにおいて、驚くべきわざを行っていました。それで、彼の真似をしようとする者たちが現れました。「使 19:13-14 ところが、ユダヤ人の巡回祈禱師のうちの何人かが、悪霊につかれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」16 そして、悪霊につかれている人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。」

悪霊どもは、イエスのことは知っています。そして、パウロのことも知っているのです。イエスの名を唱えるのではなく、イエスという方、そしてこの方を知っているパウロがいて、それで悪霊を追い出すことができていたのです。

6C 自分ではないことを知る者

ここで、ペテロが痛い思いをして、イエスのことを知ったのを思い出してください。自分の肉の力によらず、ただ御霊によってのみできることを、彼は、自分が死んでもこの方についていくと言ったのに、三度、知らないと言った、あの過ちを知っています。ですから、イエスの名によるということは、まさにイエスの御名によるのです。自分ではなくて、イエスなのだということを、自分の肉が死んでいて、十字架につけられていることを知っているからこそ、知ることができます。次回、ペテロが、きっぱりと、自分ではなく、イエスの名によるものだと宣言する所を読みます。

3A 神への賛美 9-10

⁹ 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。¹⁰ そしてそれが、宮の美しい門のところで施しを求めて座っていた人だと分かったと、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

主がなされたことを見て、神を賛美しています。イエスが不思議を行われた時も、人々は、神をあがめていました。ナインでやもめの息子を、よみがえらせた時に、「ルカ 7:16 人々はみな恐れを抱き、「偉大な預言者が私たちのうちに現れた」とか、「神がご自分の民を顧みてくださった」と言って、神をあがめた。」とあり、神をあがめたのです。これが、聖霊の働きであり、用いられた人ではなく、用いておられる神に栄光が行きます。

そして、2 章で弟子たちがそれぞれの言葉で神をあがめるのを聞いた人たちのように、ここでも、「ものも言えないほど驚いた」とあります。私たちの真ん中でも、驚くこと、自分たちの理解では分からないこと、不思議なこと、そういったことを神は用意しておられるのです。そして、その時に必要なのが、信仰の賜物です。